

平成30年第1回定例会

多摩ニュータウン環境組合議会会議録

平成30年2月13日開会

多摩ニュータウン環境組合議会

平成30年第1回定例会

多摩ニュータウン環境組合議会会議録目次

○2月13日（火）

出席議員	1
欠席議員	1
管理者等の出席	1
事務局職員の出席	1
議事日程	2
開会・開議	3
会期の決定	3
会議録署名議員の指名	3
議長報告	3
管理者報告	3
第1号議案 多摩ニュータウン環境組合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例を専決処分した ことについて	4
第2号議案 平成29年度多摩ニュータウン環境組合一般会計補正予算（第2号）	5
第3号議案 平成30年度多摩ニュータウン環境組合一般会計予算	7
閉議・閉会	12

平成30年第1回多摩ニュータウン環境組合議会定例会会議録

平成30年2月13日 開会

出席議員

第1番 馬場 貴大 君	第2番 森 英治 君
第3番 陣内 泰子 君	第5番 山下 てつや 君
第6番 藤田 学 君	第7番 橋本 由美子 君
第8番 あらたに 隆見 君	第9番 松田 大輔 君

欠席議員（1名）

第4番 新井 克尚 君

管理者等の出席

管 理 者	阿 部 裕 行 君
副 管 理 者	石 森 孝 志 君
副 管 理 者	石 阪 丈 一 君
代 表 監 査 委 員	花 形 守 康 君
会 計 管 理 者	宮 本 一 義 君
八王子市資源循環部長	原 田 親 一 君
町田市環境資源部長	水 島 弘 君
多摩市環境部長	吉 井 和 弘 君
八王子市資源循環部ごみ減量対策課長	木 下 博 文 君
町田市環境資源部環境政策課長	塩 澤 直 崇 君
多摩市環境部ごみ対策課長（兼）資源化センター長	市ノ瀬 聡 君
八王子市資源循環部清掃施設整備課長	岡 田 栄 一 君
町田市環境資源部資源循環課長	窪 倉 努 君
多摩市環境部資源循環推進担当課長	岩 田 具 嗣 君

事務局職員の出席

事 務 局 長	富 澤 浩 君
施 設 課 長	飯 塚 由 則 君
総務課長（兼）出納課長	星 野 正 春 君

速 記 士 木暮サトミ（会議録研究所）

議事日程

- 第1 会期の決定
- 第2 会議録署名議員の指名
- 第3 議長報告
- 第4 管理者報告
- 第5 第1号議案 多摩ニュータウン環境組合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例を専決
処分したことについて
- 第6 第2号議案 平成29年度多摩ニュータウン環境組合一般会計補正予算（第2号）
- 第7 第3号議案 平成30年度多摩ニュータウン環境組合一般会計予算

午後2時02分開会

○議長（森 英治君） 本日は、大変お忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございます。

なお、新井克尚議員より、本日欠席する旨の連絡が入っておりますので、ご了承願います。

ただいまの出席議員は8名であります。定足数に達しておりますので、これより平成30年第1回多摩ニュータウン環境組合議会定例会を開催いたします。

直ちに会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりでありますので、ご承知願います。



○議長（森 英治君） 日程第1、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。

会期は、本日1日といたしたいと思っております。これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森 英治君） 異議なしと認めます。したがって、会期は本日1日といたします。



○議長（森 英治君） 日程第2、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、議会会議規則第83条の規定により、議長において、

第5番 山 下 てつや 議員

第6番 藤 田 学 議員

を指名いたします。



○議長（森 英治君） 日程第3、議長報告を行います。

監査委員より、平成29年10月分から12月分までの現金出納検査報告書及び平成29年度定期監査報告書が提出されております。お手元に配付したとおりであります。ご了承ください。



○議長（森 英治君） 日程第4、管理者報告がございました。阿部管理者。

〔管理者阿部裕行君登壇〕

○管理者（阿部裕行君） 本日は、お忙しいところ、ご出席いただき、ありがとうございます。

それでは、私から報告事項を6件申し上げます。

1件目は、多摩清掃工場の運営状況についてでございます。

昨年4月から12月末までの構成市からのごみの搬入量は、可燃ごみが4万2,980 tで、前年同期に比べ640 t減少しています。不燃ごみは1,645 tで、91 tの減少、粗大ごみは1,472 tで、10 t増加しています。また、八王子市拡大区域の搬入実績につきましては7,417 tで、71 tの増加でした。各施設はいずれも順調に稼働しております。

次に、環境測定結果ですが、昨年10月に測定した3号炉の排出ガス中のダイオキシン類濃度は1 m³当たり0.0034ng-TEQであり、法規制値及びISO14001で規定している自主規制運用値を下回る結果でした。

また、昨年12月に測定しました放射能濃度測定結果につきましては、飛灰固化物が88.7Bq/kgとなり、国の基準値を大きく下回りました。なお、主灰と排ガス中の放射能濃度につきましては、いずれも不検出となっています。さらに、敷地境界における放射線量測定結果につきましては、0.05から0.08 μSv/hという結果でした。

今後も、焼却処理で発生する排ガスや焼却灰等の放射能濃度と清掃工場の敷地境界の空間放射線量率については定期的に測定を行い、速やかに公表してまいります。

2件目は、リサイクルセンターの運営状況についてです。

昨年12月末までの来館者数は2万5,125人でした。構成市で収集した粗大ごみのうち、再利用が可能なものを再生し、販売した家具や自転車等は6,050点でした。廃食器の回収につきましては、延べ451人の方の持ち込みがありました。

3件目は、地域交流事業についてです。

12月27日に、地域との交流と環境に対する関心を深めることを目的とした「唐木田クリーンアップ作戦2017」を実施いたしました。今年度も唐木田地域の13団体で構成する実行委員会で準備を進めてまいりました。当日は天候に恵まれ、115名の参加により約45kgのごみを集めました。終了後は懇親会を行い、有意義な時間を過ごすことができたことと好評でございました。

今後も、多摩清掃工場と地元地域との連携をより一層深めるため、事業の充実を図っていきたくと考えています。

4件目は、住民説明会の開催についてです。

2月7日及び10日に住民説明会を開催しました。内容といたしましては、「中期経営計画・ビジョン2017」に掲げた検討事項である「ごみ処理区域の再編」について、前回開催した平成28年2月の説明会以降の検討状況をご説明いたしました。

今後も、地域の皆様に進捗状況をご報告する機会を設けながら進めてまいりたいと考えております。

5件目は、ISO14001の認証の更新についてです。

多摩清掃工場では、「地球にやさしい循環型社会」実現のため、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001を取得していますが、昨年12月に2015年版への移行及び更新審査を受け、環境マネジメントシステムが適切に運用されていると審査機関に評価されました。

今後も、環境方針に従い、CO₂の削減など、環境への影響を最小限にとどめる取り組みを進めてまいります。

6件目は、中期経営計画の策定についてです。

安全で衛生的な運転を前提に合理的で効率的な経営を行うため、平成20年度から5年ごとに中期経営計画を策定しており、二度目の更新計画としてビジョン2022を策定いたしました。平成30年度から平成34年度までの計画における主な取り組みとしましては、長寿命化を施した工場の適正な維持管理と安定稼働の実現が挙げられます。新たな長期修繕計画とともに、5年間の財政フレームを示しました。また、現清掃工場が耐用年数を経過した後の次期処理施設のあり方に関する検討について、具体的な取り組みを開始いたします。

これから5年間、組合が一丸となり、経営方針である「環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場」の実現のため、しっかりと取り組む所存でございます。

以上6件をご報告申し上げ、管理者報告といたします。

○議長（森 英治君） 管理者報告は終わりました。



○議長（森 英治君） 日程第5、第1号議案「多摩ニュータウン環境組合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例を専決処分したことについて」を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。阿部管理者。

〔管理者阿部裕行君登壇〕

○管理者（阿部裕行君） ただいま議題となっております第1号議案について、提案の理由を申し上げます。

平成29年の給与改定については、平成29年10月6日に東京都人事委員会から、民間の支給状況を踏まえ、勤勉手当の支給月数を、一般の職員にあっては0.10カ月、再任用職員にあっては0.05カ月引き上げる勧告がなされました。

このことを踏まえて、当組合の給料関係を準拠している多摩市におきましては、勤勉手当について勧告内容に合わせて改定を行いました。勤勉手当の支給月数引き上げ分を平成30年1月31日に支給するため、平成29年12月22日の多摩市議会で議決され、平成29年12月25日に施行されております。

当組合においては、勤勉手当の支給月数引き上げ分の1月31日支給に向けて組合議会を開催するいとまがありませんでしたので、地方自治法第179条第1項の規定に基づき、当組合の職員の給与に関する条例の改正を12月25日に専決処分により行ったものです。

よろしくご審議の上、ご承認を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（森 英治君） 提案理由の説明は終わりました。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森 英治君） 質疑なしと認めます。これをもって質疑を終了いたします。

これより第1号議案に対する討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森 英治君） 討論なしと認めます。これをもって討論を終了いたします。

これより第1号議案「多摩ニュータウン環境組合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例を専決処分したことについて」を挙手により採決いたします。

本案は承認することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森 英治君） 挙手全員であります。よって、本案は承認することに決しました。



○議長（森 英治君） 日程第6、第2号議案「平成29年度多摩ニュータウン環境組合一般会計補正予算（第2号）」を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。阿部管理者。

〔管理者阿部裕行君登壇〕

○管理者（阿部裕行君） ただいま議題となっております第2号議案について、提案の理由を申し上げます。

今回の補正予算は、収入増加に伴う基金への積み立てを行うものです。その結果、歳入歳出予算をそれぞれ4,911万5,000円増額し、総額をそれぞれ18億1,496万3,000円とするものです。

まず、歳入についてご説明します。

第4款財産収入の7,000円につきましては、施設整備基金積立利子の確定に伴う計上です。

第7款諸収入の4,910万8,000円につきましては、当組合及び構成市間におけるごみ処理応援体制実施協定書に基づき受け入れたごみ処理に伴う収入です。内訳といたしまして、1,012万6,000円のごみ処理費や鉄屑等売却代の増加見込みに伴う2,592万8,000円及び電力会社への電力量料金収入増加見込み分の2分の1である1,305万4,000円を見込んだものです。

続いて、歳出です。

第5款諸支出金の4,911万5,000円につきましては、施設整備基金へ2,962万4,000円と財政調整基金へ

1,949万1,000円をそれぞれ積み立てるものです。施設整備基金については、電力量料金収入見込み金額の4分の1である652万7,000円、鉄屑等売却代金見込み金額の2分の1である1,296万4,000円及び他地区ごみ処理補正金額1,012万6,000円に利息増加分の7,000円を加えた2,962万4,000円を積み立てるものです。財政調整基金については、施設整備基金と同様に、鉄屑等売却代金見込み金額の2分の1と電力量料金収入見込み金額の4分の1の合計1,949万1,000円を積み立てるものです。

これにより、平成29年度末における基金現在高は、施設整備基金が6億1,322万2,000円、財政調整基金が5億3,302万7,000円となる見込みです。

以上が歳入歳出予算の内容です。

よろしくご審議の上、ご承認を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（森 英治君） 提案理由の説明は終わりました。

これより質疑に入ります。質問はありませんか。

橋本議員。

○7番（橋本由美子君） 補正予算の第2号諸収入の雑入について伺います。

鉄屑等の売却について今ご説明がありましたが、増額補正2,592万8,000円について伺います。鉄屑等ということですが、残灰の中には鉄分以外にもさまざまな品目が含まれていると認識しています。主な品目、またその中で特に金額的にこの予算を計上した時と大きく変わっているものもあるかと思うんですが、そのことについてのご説明。また、そういう増える理由になったところで認識なさっていることなどをご説明いただければと思います。

よろしくお願ひいたします。

○議長（森 英治君） 富澤事務局長。

〔事務局長富澤 浩君登壇〕

○事務局長（富澤 浩君） お答えいたします。

売却の主な品目としては、可燃ごみを焼却した後の灰から選別回収した残灰鉄、不燃・粗大ごみを破碎後、選別回収した破碎鉄、手選別で回収した携帯電話、小型家電、アルミ等がありますが、その中で今回の補正に大きく影響したのは、残灰鉄と破碎鉄になります。

これらの品目は、全体に占める売却量の割合が高いことに加え、予算積算時は鉄類の相場が大幅に下落したため、売却単価も低く見積もりましたが、その後、相場が回復し、鉄類の単価が予算積算時の約4倍となったことが補正増の主な要因でございます。

相場が大幅に変動した要因としては、国内外の経済状況や円相場による市況の変化等が考えられますが、そのほかにもさまざまな要因が影響し合うため、予測は大変困難なものと考えております。

以上です。

○議長（森 英治君） 橋本議員。

○7番（橋本由美子君） ありがとうございます。答弁をお聞きすると、予測がなかなか難しい。おとしの時点での価格でということ、理解はできます。鉄屑等の中身も今回いろいろお聞きいたしましたけれども、さまざまなものが含まれているということがわかりました。可燃物で燃やした、その灰から出るものと、携帯電話や小型家電のように分別をすることによって、つまり資源を有効に活かすという、そういう2つの因子があると思いますが、小型家電のように、いわゆる資源の有効利用という観点では、特に構成市の市民にそれをわかっていただき、それをきちんと排出していただく、その努力も必要かと思うのですが、この辺の取り組みについて伺います。

○議長（森 英治君） 富澤事務局長。

〔事務局長富澤 浩君登壇〕

○事務局長（富澤 浩君） ごみの分別、資源の有効利用についての啓発、こちらにつきましては、各構成市においても鋭意進められているところでございますけれども、当組合でも、清掃工場見学者に対するごみに混入している携帯電話や小型家電等の資源物の展示や「こども清掃工場見学会」、「たまかんフェスタ」で実施する手選別体験を通じまして、資源の有効利用の啓発に取り組んでいるところでございます。

以上です。

○議長（森 英治君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森 英治君） 質疑なしと認めます。これをもって質疑を終了いたします。

これより第2号議案に対する討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森 英治君） 討論なしと認めます。これをもって討論を終了いたします。

これより第2号議案「平成29年度多摩ニュータウン環境組合一般会計補正予算（第2号）」を挙手により採決いたします。

本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森 英治君） 挙手全員であります。よって、本案は原案のとおり可決されました。



○議長（森 英治君） 日程第7、第3号議案「平成30年度多摩ニュータウン環境組合一般会計予算」を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。阿部管理者。

〔管理者阿部裕行君登壇〕

○管理者（阿部裕行君） ただいま議題となっております第3号議案について、提案の理由を申し上げます。

内閣府の月例経済報告には、「景気は、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある」と記載されています。

また、平成30年度の東京都予算案では1.3%増加し、2年ぶりに7兆円台の予算規模となっています。

しかしながら、構成市の財政状況は依然として厳しいことには変わりはありません。

平成30年度予算編成に当たり、多摩ニュータウン環境組合では、「中期経営計画・ビジョン2022」が開始初年度を迎えることから、始動の年と位置づけ、そこで計画された事業の確実な実行と安全で安定した運営に取り組むことを基本としています。

歳入では、建築設備更新工事と分散型計算機制御システム更新工事に施設整備基金から繰り入れを行います。また、売電収入や鉄屑等売却代の独自財源の増収に努めています。

歳出については、法定検査等に伴う経費以外の増加を極力抑制するとともに、計画的に施設整備の更新を行います。設備の老朽化に伴う分散型計算機制御システム更新工事や吸収式冷凍機補修工事等を新規計上しております。

今後も、経営方針である「環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場」を目指し、地域の信頼と期待に応えられるよう着実に取り組んでまいります。

よろしくご審議の上、ご承認を賜りますようお願い申し上げます。

なお、予算の内容について、事務局長より説明をいたさせます。

○議長（森 英治君） 提案理由の説明は終わりました。

事務局長より補足説明があります。富澤事務局長。

〔事務局長富澤 浩君登壇〕

○事務局長（富澤 浩君） それでは、平成30年度当初予算案について、資料3の平成30年度予算の概要をもとに補足説明をいたします。

1 ページをお開き願います。

こちらは予算編成の基本的な考え方で、組合の予算編成方針になります。

2 ページでは、平成30年度予算のポイントとして掲げました6点について説明しております。

平成30年度予算の規模につきましては16億516万4,000円となり、前年度に比べて564万7,000円、0.4%の増加となり、前年度とほぼ同規模の予算となりました。

次に、3ページ、4ページの予算の主な内容をお開きください。

(1)歳入では、根幹である第1款分担金及び負担金が10億5,044万8,000円と、29年度と比べて2.1%の減少となりました。

構成市別の負担金内訳につきましては、下段の表のとおり、八王子市が3億4,084万3,000円で全体の32.4%、町田市が6,523万8,000円で6.2%、多摩市が6億4,436万7,000円で61.4%となっております。

第2款使用料及び手数料につきましては、自動販売機の設置使用料、敷地内の電柱用地の使用料、リサイクルセンターの多目的室使用料でございます。

第3款国庫支出金につきましては、科目存置でございます。

第4款財産収入につきましては、基金の利子収入を見込みました。

第5款繰入金の内訳につきましては、施設整備基金から建築設備更新工事と分散型計算機制御システム更新工事へ8,348万6,000円、財政調整基金から28年度決算の剰余金として積み立てた半額分の8,316万5,000円の合計となります。

第6款繰越金につきましては、平成29年度予算額の2%、3,198万円を見込みました。

第7款諸収入につきましては、八王子市拡大区域ごみ処理費1億7,799万7,000円、構成市の清掃工場停止による他地区ごみ処理費635万5,000円、売電収入1億5,593万8,000円、鉄屑等売却代1,347万7,000円、雑入209万3,000円、合計3億5,586万円で、2,500万3,000円、7.6%の増加となっております。

次に、4ページ、(2)歳出について。

第1款議会費は、宿泊による視察を予定しており、29年度と比べて39万9,000円の増加となっております。

第2款処理場費は15億1,203万2,000円で、前年度に比べて0.1%の増加となっております。その内容は多様な事業から成っておりますが、特筆するものとして、委託料ではPCB廃棄物の処理が完了したことによる予算額の減少、工場運転管理業務委託料は長期継続契約による契約金額の確定により3,172万8,000円減少し、工場の臭気対策で使用している脱臭用活性炭の劣化による入替で1,389万7,000円の増加等がございます。

また、工事請負費では、長期修繕計画に基づく機器補修工事、分散型計算機制御システム更新工事、吸収式冷凍機補修工事などがございます。

第3款公債費につきましては、一時借入金の設定限度枠5,000万円の利子見込み額を計上しております。

第4款予備費につきましては、例年どおり1,000万円を計上しております。

第5款諸支出金につきましては、売電収入の4分の1ずつを施設整備基金と財政調整基金に積み立てます

が、ごみ搬入量の減少が続く中、精査を行い、売電の収入を多く見込んだため、前年度比で393万8,000円増加しております。

最後に、5ページの基金の現在高についてご説明いたします。

施設整備基金につきましては、売電収入3,898万5,000円と運用利子5万9,000円、合計3,904万4,000円を積み立てる一方、8,348万6,000円を取り崩し、建築設備更新工事と分散型計算機制御システム更新工事に充当することで、年度末残高は5億6,878万円を見込んでおります。

財政調整基金につきましては、同額の売電収入と運用利子4万4,000円を積み立てる一方、繰入金として8,316万5,000円を取り崩すことにより、残高は4億8,889万1,000円となることを見込んでおります。

平成30年度当初予算の補足説明につきましては、以上でございます。

○議長（森 英治君） 補足説明は終わりました。

これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

陣内議員。

○3番（陣内泰子君） ただいまご説明いただきました第3号議案の平成30年度多摩ニュータウン環境組合一般会計予算のうちの歳入のうちの諸収入のうち、売電収入についてお伺いいたします。

ご説明で、売電収入は1億5,593万8,000円が計上されているところで、これは前年に比べて783万円ほどの増になっているということです。しかし、固定価格買取制度の期間満了がこの12月とのことになっています。ということは、当然、契約終了によって、これまでの買い取り価格を維持できなくなると思うわけです。

そこでお尋ねいたしますが、こういった状況の中での売電収入が増加になっているわけです。この理由についてご説明いただきたいと思います。

そしてまた、今までいくらで電気を売っていたのか、そしてまたこの期間終了によっていくらくらいになるのかも併せてお示しいただきたいと思います。

そして、この2018年度の影響は予算を見る限りないわけなんですけれども、2019年度以降についてどのような影響を受けると見通しているのか、それについてもお答えいただきたいと思います。

よろしくお願ひいたします。

○議長（森 英治君） 富澤事務局長。

〔事務局長富澤 浩君登壇〕

○事務局長（富澤 浩君） それでは、お尋ねの電力料金収入の増加の理由についてでございます。

こちらにつきましては、ごみの搬入計画によるごみ量が平成29年度に比べ増加し、それに伴いまして発電量も増加が見込めること、また平成30年12月までの売電単価が平成29年度予算積算時に見込んだ額を上回っていることから、1月以降見込まれます単価下落分を差し引いても増加すると見込んでおります。

次に、これまでの収入額、また今後の見込み、影響について、まず総括的な部分の総額的な部分のお話をさせていただきます。

平成25年度の固定価格買取制度認定以降の電力料金収入につきましては、毎年、おおむね2億円強となっておりますが、平成29年度については単価の下落があり、約1億7,000万円となる見込みでございます。また、固定価格買取制度認定終了によりまして、平成31年度以降の電力料金収入、こちらについては約1億円強の見込みになると考えているところでございます。

参考までに、既に契約している平成30年12月までの単価を申し上げますと、固定価格買取制度の対象となる電力は1kwh当たり18.36円、対象とならない電力は、季節、時間帯等により異なりますが、8.71円から15.73円となっており、固定価格買取制度終了後は、今後新たに契約する予定ということになっております。

以上です。

○議長（森 英治君） 陣内議員。

○3番（陣内泰子君） 今ご説明いただきました。ありがとうございます。今年度、2018年度については、ごみの搬入計画でごみ量が増えるということもあって、単価が下がった分もそのごみ量によって吸収しているということなんですけれども、やはり2019年度以降は大変厳しい状況になるのかなと思いますし、またごみの搬入についても、ごみ減量が進んでいく中でやはり余りあてにはならない要因だと思っています。

そこで、少し長期的な展望をお聞きします。2018年度から先ほどの「中期経営計画・ビジョン2022」がスタートするわけですが、その中で大きな課題というのは、まず次期処理施設に関する検討と言えます。先日の地元説明会でもお話があったように、2033年までに現工場の長寿命化対策を行って運転していくとのことで、そのためにというか、著しく工場機能を損なわないでの事業持続ということで、5万4,000tのごみ焼却の維持が掲げられているわけですが、より効率的な工場運営には、さらなる新しい技術の検討など、より専門的な視点が必要になってくるかと思います。先ほどお聞きしたように、このFIT認定終了を受けての売電単価が引き下げられて、売電収入の減少もそういう意味では現実的な問題として、さっきご説明があったように、間近に迫っているわけです。

そういう中で、八王子市においては、2017年3月でこのFIT契約を解約し、東京電力との売電契約に切り替わったことによって、単価引き下げによって売電収入が減ったことに対して、それを自己託送に切り替えることによって、発電を行う清掃工場だけではなくて、他の公共施設、例えば市役所等への利用に充当するという電力の地産地消をこの8月からスタートさせるということが進んできております。この当組合においても、「中期経営計画・ビジョン2022」においてこの電力の地産地消の検討と書き込まれているわけであるんですが、計画期間中、5年間、つまり2022年までずっと検討となっているわけです。そういう中で、やはり速やかに研究検討して事業を進めていく、また地域電力会社の設立などといったことも課題として書かれているわけで、その具体的な進め方、それについてもう少し詳しくご説明いただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

○議長（森 英治君） 富澤事務局長。

〔事務局長富澤 浩君登壇〕

○事務局長（富澤 浩君） 電力料金収入については、平成31年1月以降、売電単価の引き下げにより大幅な低下が想定されますが、契約の期間、また契約時期を検討し、収入確保に努めてまいります。

また、ご質問者からありました「ビジョン2022」で掲げております電力の地産地消についてでございますが、まず、電力会社の送配電ネットワークを利用して発電した電力を送電いたします、ご質問者もおっしゃっていた自己託送制度について、また、地域電力会社に関連して、環境省の委託事業により「多摩地域における廃棄物発電のネットワーク化に関する実現可能性調査」が行われておりますので、こちらについては調査の動向を注視しながら、ただ、いずれも今後、導入可能性を検証する形になりますので、具体的な導入時期、目標は今お示しする状況にはありませんけれども、おっしゃるような研究検討を進めていきたいと考えているところでございます。

以上です。

○議長（森 英治君） よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。

橋本議員。

○7番（橋本由美子君） では、一般会計予算について、3つの点について伺いたいと思います。

1つ目は、補正の内容とも関連いたしますが、雑入の鉄屑等売却代についてです。ニュータウン環境組合のような多摩地域の清掃工場から集められた焼却灰というのは、資源循環組合でエコセメント化の前にも改めて金属類の回収が行われております。そこで回収される有価物、この歳入の量はかなりの量になると言われています。今後の資源・エネルギーの有効活用方針として、落じん灰回収を検討する旨の方向性が示されていますが、今の能力では回収しきれないものがどのようにあるのか、また回収するとしたらどのような施設が必要で、どの程度の投資を考えていらっしゃるのか、その辺についてお答えください。

2つ目は、陣内議員も触れられていた電力の料金収入のことですが、数字についてはお答えがありましたので、私は、こうした状況が生まれているのはこの組合だけの問題ではないと思います。全国で、焼却によって得られた電力を売却し、住民に役立てている関係団体が共通の問題として、このFIT、国に意見書を出したり何か動きはないのかどうか、その点です。

そして最後に、これは先ほど管理者報告にも含まれておりましたが、次期処理施設について、基本的な方針で構成市が合意するということがこの中期計画にも書かれています。そして次年度、2018年度は、その初年度として何か取り組みのための予算などが計上されていて、含まれているのか、その点について伺います。以上です。

○議長（森 英治君） 富澤事務局長。

〔事務局長富澤 浩君登壇〕

○事務局長（富澤 浩君） お答えいたします。

1点目、落じん灰についてのご質問にお答えいたします。焼却炉内でごみを乗せて稼働する火格子の間から落下する落じん灰につきましては、多くの有用金属が含まれており、さらなる資源化が見込まれるところでございますが、現状としては焼却灰として最終処分場のほうに運ばれている実態がございます。当組合の施設でこれを回収するにはコンベヤ等の改造が必要となりますが、費用の算出につきましては今後進めていく予定ということにしております。

2点目、電力料金収入の関係で、国への要望、意見等についてでございます。こちらにつきましては、全国都市清掃会議の国への要望事項で「RPS経過措置廃止後、FIT制度の適用から外れる施設に対する新たな制度の制定について」ですとか「計画値同時同量制度における廃棄物発電の特例適用について」など、廃棄物発電についてもさまざまな要望をしているところでございます。

3点目、次期処理施設の件に関しましては、平成30年度は特別に予算事業化はしておりませんが、ご質問者もおっしゃるとおり、「ビジョン2022」の中で平成33年度に基本的な方針を決定していくこととしており、平成30年度には検討を開始していきたいと考えているところでございます。

以上です。

○議長（森 英治君） 橋本議員。

○7番（橋本由美子君） ありがとうございます。

1番の焼却灰の中からという件は、どのくらいの金額がかかるのか、それは回収される金属類の量とか売却価格などの関係もあるでしょうが、ぜひとも積極的に検討を進めていただきたいと思います。

また、先ほど補正のほうでもありましたけれども、小型家電も含めた資源として市民がそれをしっかり捉えるということで、そのために回収するという理解が基本的にあることがとても重要かと思えます。今後、組合として今まで以上にぜひ取り組んでいただきたいと思います。今後の取り組みについて改めて伺いたいと思います。

それから、電力売却の問題については国のエネルギー政策にもかかわることと言えますが、少なくとも同

じような状況に置かれている団体が共通認識として国などに提言を続けることが、やはり実態を訴えていくことが大事ではないかと思えます。そうした意味では、管理者のお考え、改めて伺います。

最後に、次期の施設問題については、構成市の今後の財政計画にもかかわることで、簡単に結論が出せるものではないと思えます。しかし、その調整は、この組合が進めるべき課題でもあります。ぜひ十分な意思交流を行い、今までの一部事務組合の積み重ねもまさしく大切にしながら、結論に向けて動いていただきたいと思っておりますが、その点についていかがでしょうか。

以上です。

○議長（森 英治君） 富澤事務局長。

〔事務局長富澤 浩君登壇〕

○事務局長（富澤 浩君） 市民の資源物回収への理解促進につきましては、こちらは繰り返しになりますけれども、工場見学者に対して資源物を展示することや手選別体験を通じて発信していくこと、こちらのほうを継続的に取り組んでいきたいと考えております。

2点目の国に対する提言についてでございますが、廃棄物発電は再生可能なクリーンエネルギーとして導入が進められているところであります。国においても固定価格買取制度などが実施されているところでございますけれども、今後、取り組みがより進むように、自治体、一部事務組合と連携を深め、制度改善についても研究を進めていきたいと考えております。

最後に、次期処理施設についてでございます。こちらについては構成市の一般廃棄物処理基本計画にも網羅していく必要もあるので、平成30年度から33年度までの4カ年で構成市との情報共有を行いながら、基本的事項について検討していく予定でございます。特に、おっしゃっていただきましたとおり、施設建設に係る費用のあり方につきましては、構成市の財政計画との整合を図りながら、平成31年度中には方向性を決めていきたいと考えているところでございます。

以上です。

○議長（森 英治君） よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森 英治君） 質疑なしと認めます。これをもって質疑を終了いたします。

これより第3号議案に対する討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森 英治君） 討論なしと認めます。これをもって討論を終了いたします。

これより第3号議案「平成30年度多摩ニュータウン環境組合一般会計予算」を挙手により採決いたします。本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（森 英治君） 挙手全員であります。よって、本案は原案のとおり可決されました。

◇

○議長（森 英治君） これをもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。

これにて閉会といたします。大変お疲れさまでした。

午後2時48分閉会

多摩ニュータウン環境組合議会 議長 森 英 治

議員(5) 山 下 てつや

議員(6) 藤 田 学